

みなし仮設住宅入居者の声

下陳に住んでいましたが、現在は熊本市内のみなし仮設住宅に住んでいます。



町外のみなし仮設住宅に住む
もりおか ゆう子 森下優子さん

時々、全壊となったわが家を訪れ、片付けや整理をしています。
下陳地区は、人々のつながりも強く、お互いに助けあい暮らしてきました。
帰りたいという気持ちはありますが、これからの暮らしを考えると迷う気持ちがあります。体も動くし車

も運転できる今なら、家を建て戻っても問題なく生活できると思いますが、年を重ねても果たして暮らせるかというのを改めて考えさせられます。
私たちは今、これから人生をどう過ごしていきたいのかという命題を問われているのだと思います。

仮設住宅入居者の声

ボランティアの方たちがイベントを定期的開催してくれたことで、徐々に打ち解け、仲良くやっています。木山仮設は3つに分か



木山仮設団地に住む
あらせ よしあき 荒瀬芳昭さん、こみね ひろ子 小嶺ひろ子さん
うえむら しずお 植村鎮男さん

れていますが、住民は地区の隔てなく交流しています。これから考えると仮設住宅にいつまでも居住はできないので、「自立を」とは思いますが、プランが立てづらいのが現状です。
復興にも順序があり、行政が尽力しているのは理解していますが、めどが付きにくく、また元の場所に住宅を建てて大丈夫かなど、懸念もあります。多くの人が町に住み続けたい、帰りたいと言っているので、市街化調整区域やその他規制

の再検討も含めより多くの選択肢を考えてほしいです。
また、自治会についても若い人がもっと参加してほしいと思います。なかなか難しいのですが、東北や神戸を見ると、若者が中心となって住民自治やまちづくりで活躍し成功している事例も見られます。町の復興には、数年ではなく長い年月が必要です。
その長い年月を経たとき、この町を担っていくのは次の世代です。次世代の積極的な姿勢に期待したいです。

人々の、今

震災から1年が経った今、一人一人の状況、視点はさまざまです。皆さんの想いをお聞きしました。

仮設・みなし仮設住宅の状況

■みなし仮設住宅入居状況（平成29年2月28日現在）

◆決定件数／1,417件 ◆入居人数／3,799人

■みなし仮設住宅のサポート



現在、被災された方全てに対して「地域支援合いセンター」が組織的な支援を行っています。その中でも、みなし仮設住宅については、同センターに所属する「ところをつなぐよか隊ネット」の16人の職員さんたちが1,300世帯ある住宅を一軒ずつ訪問し、日々の暮らしの困りごとについてご相談を受けています。

■仮設住宅入居状況（平成29年3月21日現在）

◆入居戸数／1,507戸 ◆入居者数／3,855人

■仮設住宅の住環境整備



仮設住宅は夜間は真っ暗になってしまうため、街灯を設置しています。また、荷物の収納場所として物置も設置しています。